

§1.11 回帰係数の推定と検定

富島 諒

2021 年 6 月 17 日

1 回帰係数の推定と検定

単回帰分析では説明変数の個数は 1 個であったが、今回の節では説明変数が p 個になり式 (1) のような回帰モデルとなると仮定する。ここで、 e_i は独立な確率変数で正規分布 $N(0, \sigma^2)$ に従う。

$$y_i = a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi} + e_i, \quad i = 1, 2, \dots \quad (1)$$

また、標本のデータ $(x_{1i}, x_{2i}, \dots, x_{pi}, y_i), i = 1, 2, \dots, n$ であるとき、それに基づく回帰係数 \hat{a}_j は §1.5 線形重回帰より、式 (2) のように表される。

$$\hat{a}_j = \frac{\begin{vmatrix} s_{11} & s_{12} & \cdots & s_{y1} & \cdots & s_{1p} \\ s_{21} & s_{22} & \cdots & s_{y2} & \cdots & s_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{p1} & s_{p2} & \cdots & s_{yp} & \cdots & s_{pp} \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} s_{11} & s_{12} & \cdots & s_{1j} & \cdots & s_{1p} \\ s_{21} & s_{22} & \cdots & s_{2j} & \cdots & s_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{p1} & s_{p2} & \cdots & s_{pj} & \cdots & s_{pp} \end{vmatrix}} \quad (2)$$

(* j 列を y と x_1, \dots, x_p との共分散に置き換えている)

余因子と余因子展開

$p \geq 2$ とする。 p 次正方行列 $\mathbf{V} = [s_{jl}]$ の第 j 行と第 l 列を取り除いてできる $p-1$ 次正方行列の行列式を $(-1)^{j+l}$ 倍した数、

$$\begin{vmatrix} s_{11} & \cdots & s_{1(l-1)} & s_{1(l+1)} & \cdots & s_{1p} \\ \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots \\ s_{(j-1)1} & \cdots & s_{(j-1)(l-1)} & s_{(j-1)(l+1)} & \cdots & s_{(j-1)p} \\ s_{(j+1)1} & \cdots & s_{(j+1)(l-1)} & s_{(j+1)(l+1)} & \cdots & s_{(j+1)p} \\ \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots & \vdots \\ s_{p1} & \cdots & s_{p(l-1)} & s_{p(l+1)} & \cdots & s_{pp} \end{vmatrix} (-1)^{j+l}$$

を \mathbf{V} の (j, l) 余因子といい、 V_{jl} と表す。

また行列 \mathbf{V} に対して、

$$|\mathbf{V}| = s_{j1}V_{j1} + s_{j2}V_{j2} + \cdots + s_{jp}V_{jp} \quad (\text{第 } j \text{ 行に関する展開}) \quad (3)$$

$$|\mathbf{V}| = s_{1l}V_{1l} + s_{2l}V_{2l} + \cdots + s_{pl}V_{pl} \quad (\text{第 } l \text{ 列に関する展開}) \quad (4)$$

のような変換を行える。これを余因子展開という。

ここで式 (2) の分子で余因子展開の定理 (4) を用い, 分母は §1.5 で定義された分散共分散行列 \mathbf{V} であるから, 式 (2) は式 (5) のように変形できる.

$$\hat{a}_j = \frac{\begin{vmatrix} s_{11} & s_{12} & \cdots & s_{y1} & \cdots & s_{1p} \\ s_{21} & s_{22} & \cdots & s_{y2} & \cdots & s_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{p1} & s_{p2} & \cdots & s_{yp} & \cdots & s_{pp} \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} s_{11} & s_{12} & \cdots & s_{1j} & \cdots & s_{1p} \\ s_{21} & s_{22} & \cdots & s_{2j} & \cdots & s_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{p1} & s_{p2} & \cdots & s_{pj} & \cdots & s_{pp} \end{vmatrix}} = \frac{s_{y1}V_{1j} + s_{y2}V_{2j} + \cdots + s_{yp}V_{pj}}{|\mathbf{V}|} \quad (5)$$

余因子行列と逆転公式

p 次正方行列 $\mathbf{V} = [s_{jl}]$ とする. \mathbf{V} の余因子行列 $\tilde{\mathbf{V}}$ とは, (j, l) 成分に余因子 V_{jl} を持つ p 次正方行列の転置行列である. したがって, $\tilde{\mathbf{V}}$ は式 (6) のようになる.

$$\tilde{\mathbf{V}} = \begin{bmatrix} V_{11} & V_{12} & \cdots & V_{1p} \\ V_{21} & V_{22} & \cdots & V_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ V_{p1} & V_{p2} & \cdots & V_{pp} \end{bmatrix}^T = \begin{bmatrix} V_{11} & V_{21} & \cdots & V_{p1} \\ V_{12} & V_{22} & \cdots & V_{p2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ V_{1p} & V_{2p} & \cdots & V_{pp} \end{bmatrix} \quad (6)$$

そして, 正方行列 \mathbf{V} に対して式 (7) のような関係式が成り立つ. これを逆転公式という.

$$\mathbf{V}^{-1} = \frac{\tilde{\mathbf{V}}}{|\mathbf{V}|} \quad (7)$$

そして, \mathbf{V} の逆行列の (j, l) 要素を s^{jl} とすると, 逆転公式の式 (7) より,

$$\mathbf{V}^{-1} = \frac{\tilde{\mathbf{V}}}{|\mathbf{V}|} = \frac{\begin{bmatrix} s^{11} & s^{12} & \cdots & s^{1p} \\ s^{21} & s^{22} & \cdots & s^{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s^{p1} & s^{p2} & \cdots & s^{pp} \end{bmatrix}}{\begin{bmatrix} V_{11} & V_{21} & \cdots & V_{p1} \\ V_{12} & V_{22} & \cdots & V_{p2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ V_{1p} & V_{2p} & \cdots & V_{pp} \end{bmatrix}} / |\mathbf{V}|$$

となるので, $s^{jl} = \frac{V_{lj}}{|\mathbf{V}|}$ である. したがって, 式 (5) は,

$$\hat{a}_j = \frac{s_{y1}V_{1j} + s_{y2}V_{2j} + \cdots + s_{yp}V_{pj}}{|V|} \quad (5)$$

$$\begin{aligned} &= s_{y1}s^{j1} + s_{y2}s^{j2} + \cdots + s_{yp}s^{jp} \\ &= \sum_{l=1}^p s_{yl}s^{jl} \\ &= \sum_{l=1}^p s^{jl} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})(x_{li} - \bar{x}_l) \\ &= \sum_{l=1}^p s^{jl} \frac{1}{n} \left\{ \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l)y_i - \bar{y} \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) \right\} \\ &= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p \sum_{i=1}^n s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l)y_i \end{aligned} \quad (8)$$

となる。また、§1.5 で

$$\hat{a}_0 = \bar{y} - (\hat{a}_1\bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p\bar{x}_p) \quad (9)$$

のような式が得られたので、これに式 (8) を代入すると、

$$\begin{aligned} \hat{a}_0 &= \bar{y} - (\hat{a}_1\bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p\bar{x}_p) \\ &= \bar{y} - \sum_{j=1}^p \hat{a}_j\bar{x}_j \\ &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i - \frac{1}{n} \sum_{j=1}^p \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p \bar{x}_j s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l)y_i \\ &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left\{ 1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l) \right\} y_i \end{aligned} \quad (10)$$

のようになる。

したがって、 \hat{a}_j, \hat{a}_0 正規分布に従う変数 $y_i, i = 1, 2, \dots, n$ の 1 次式で表されることがわかる。これより回帰係数 \hat{a}_j 及び定数項 \hat{a}_0 の期待値と分散を求めると、式 (11) のようになる。

$$E(\hat{a}_j) = a_j, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11a)$$

$$V(\hat{a}_j) = \frac{s^{jj}\sigma^2}{n}, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11b)$$

$$\text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl}\sigma^2}{n}, \quad j \neq l, \quad j, l = 1, 2, \dots, p \quad (11c)$$

$$E(\hat{a}_0) = a_0 \quad (11d)$$

$$V(\hat{a}_0) = \left(\frac{1}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_j\bar{x}_l s^{jl}}{n} \right) \sigma^2 \quad (11e)$$

$$\text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) = - \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_l s^{jl}\sigma^2}{n}, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11f)$$

なお、式 (11) の証明は長くなるので後述する (2.2). 式 (11a) と式 (11d) より標本のデータを用いて計算した $\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p$ は母集団における値 a_0, a_1, \dots, a_p に対して不偏推定値となっていることが言える.

不偏推定値

標本から測定した推定値の期待値が母集団のそれに等しいとき、その推定値を**不偏推定値 (量)** という.

単回帰の場合と同様,

$$u = \frac{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)}{\sqrt{V(\hat{a}_j)}} \quad (12)$$

のように標準化すると u は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う. またこの時, 分母に含まれる未知の誤差分散 σ^2 を不偏推定値

$$V_e = \frac{F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)}{n - p - 1} \quad (13)$$

で置き換えて得られる統計量,

$$t = \frac{\hat{a}_j - a_j}{\sqrt{s^{jj} \frac{V_e}{n}}} \quad (14)$$

$$t = \frac{\hat{a}_0 - a_0}{\sqrt{\left(1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}\right) \frac{V_e}{n}}} \quad (15)$$

はいずれも自由度 $n - p - 1$ の t 分布に従う. また, 式 (13) の V_e が誤差分散 σ^2 の不偏推定値であることの証明は後述する (2.4).

ここで式 (13) における右辺の分子である予測誤差の平方和は

$$\begin{aligned} F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p) &= \sum_{i=1}^p \{y_i - (\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \dots + \hat{a}_p x_{pi})\}^2 \quad (\S 1.5 \text{ より}) \\ &= n(s_{yy} - \sum_{l=1}^p s_{yl} \hat{a}_l) \end{aligned} \quad (16)$$

のように変形できる. 証明は後述する (2.3).

これより, 仮説 $H_0 : a_j = a_j^{(0)}$ あるいは $H_0 : a_0 = a_0^{(0)}$ の検定 ($a_j^{(0)}, a_0^{(0)}$ は与えられた値) 及び \hat{a}_j, \hat{a}_0 の信頼区間は次のようになる.

- 仮説 $H_0 : a_j = a_j^{(0)}$ の検定 ($j = 1, 2, \dots, p$):

$$|t| = \frac{|\hat{a}_j - a_j^{(0)}|}{\sqrt{s^{jj} \frac{V_e}{n}}} \geq t_\alpha(n - p - 1) \quad (17)$$

ならば危険率 α で仮説を棄却し, 不等号の向きが逆ならば仮説を採択.

- 仮説 $H_0 : a_0 = a_0^{(0)}$ の検定:

$$|t| = \frac{|\hat{a}_0 - a_0^{(0)}|}{\sqrt{\left(1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}\right) \frac{V_e}{n}}} \geq t_\alpha(n-p-1) \quad (18)$$

ならば危険率 α で仮説を棄却し, 不等号の向きが逆ならば仮説を採択.

- $a_j, j = 1, 2, \dots, p$ の信頼率 $1 - \alpha$ の信頼区間:

$$\hat{a}_j - t_\alpha(n-p-1) \sqrt{\frac{s^{jj} V_e}{n}} \leq a_j \leq \hat{a}_j + t_\alpha(n-p-1) \sqrt{\frac{s^{jj} V_e}{n}} \quad (19)$$

- a_0 の信頼率 $1 - \alpha$ の信頼区間:

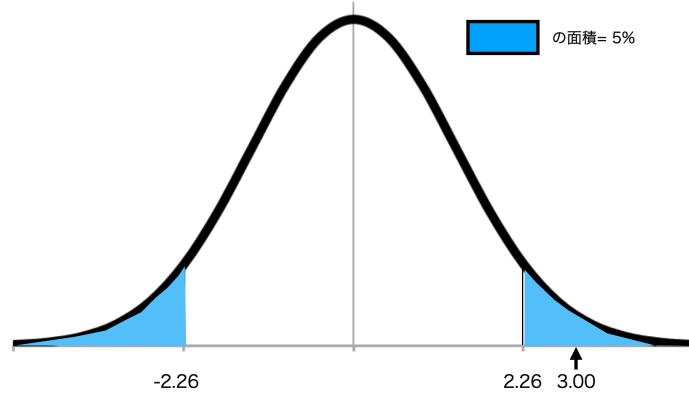
$$\begin{aligned} \hat{a}_0 - t_\alpha(n-p-1) \sqrt{\left(1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}\right) \frac{V_e}{n}} &\leq a_0 \\ &\leq \hat{a}_0 + t_\alpha(n-p-1) \sqrt{\left(1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}\right) \frac{V_e}{n}} \end{aligned} \quad (20)$$

信頼区間と仮説

母集団から標本をとってきて, その平均から $100(1 - \alpha)\%$ という作業を求めるという作業を行ったとき $100(1 - \alpha)$ 回, 母平均が含まれるような区間を**信頼区間**という.

また, t 分布による両側検定を行い, 検定統計量が自由度と標本の個数に基づく値より大きければ (外側にある) その仮説を棄却する. 逆に, 小さければ仮説を採択する.

例えば, 自由度が 9 の t 分布において危険率 5% では $t_{0.025}(9) = 2.26$ となる. 検定統計量によって求めた値が $t = 3.00$ であるとする, 図 1 より, 有意水準 5% において帰無仮説を棄却することとなる.



次に、回帰の有意性、言い換えると、取り上げた説明変数 x_1, \dots, x_p が全体として y の予測に役立つと言えるのかどうかの検定問題を考える。まず、予測値 Y_i は指定変数の組 $(x_{1i}, x_{2i}, \dots, x_{pi})$ に対して

$$Y_i = \hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \dots + \hat{a}_p x_{pi} \quad (21)$$

のように計算される。そして、観測値 y_i の変動 (平方和) を式 (22) のように分解する。

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2 &= \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{Y})^2 \\ (\because \bar{y} &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n Y_i + \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n e_i = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n Y_i = \bar{Y} \text{ より}) \\ &= \sum_{i=1}^n (y_i - Y_i + Y_i - \bar{Y})^2 \\ &= \sum_{i=1}^n (y_i - Y_i)^2 + \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 + 2 \sum_{i=1}^n (y_i - Y_i)(Y_i - \bar{Y}) \end{aligned} \quad (22)$$

また、§1.5 で次のような関係となることがわかっている。

$$\left\{ \begin{array}{l} \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \hat{a}_2(x_{2i} - \bar{x}_2) - \dots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\} = 0 \\ \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \hat{a}_2(x_{2i} - \bar{x}_2) - \dots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\} x_{1i} = 0 \\ \vdots \\ \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \hat{a}_2(x_{2i} - \bar{x}_2) - \dots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\} x_{ji} = 0 \\ \vdots \\ \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \hat{a}_2(x_{2i} - \bar{x}_2) - \dots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\} x_{pi} = 0 \end{array} \right. \quad (23)$$

式 (23) を用いると、式 (22) の第 3 項は

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n (y_i - Y_i)(Y_i - \bar{Y}) &= \sum_{i=1}^n \{y_i - (\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \cdots + \hat{a}_p x_{pi})\} \{\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \cdots + \hat{a}_p x_{pi} - \bar{Y}\} \\
&= \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \cdots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\} \{\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \cdots + \hat{a}_p x_{pi} - \bar{Y}\} \\
&\quad (\because \text{式 (9)} \quad \hat{a}_0 = \bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) \text{ より}) \\
&= 0
\end{aligned} \tag{24}$$

したがって、式 (25) のように変動の分解ができる。

$$\underbrace{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}_{\text{全変動 } (S_T)} = \underbrace{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}_{\text{回帰変動 } (S_R)} + \underbrace{\sum_{i=1}^n (y_i - Y_i)^2}_{\text{残差変動 } (S_e)} \tag{25}$$

右辺の第 1 項 S_R は回帰式に基づく予測値 Y_i の変動、第 2 項 S_e は残差の変動であって、前者は全変動のうち回帰によって説明される部分、後者は説明されない部分の変動である。もし取り上げた説明変数 x_1, \dots, x_p が y の予測に有効であるとすれば、全変動 S_T は一定であるため残差変動 S_e は小さくなり、逆に無効であるとすれば、 S_e は大きくなる。ここで

$$R^2 = \frac{S_R}{S_T} = \frac{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2} \tag{26}$$

のようにおけば、 R^2 は全体の変動のうち回帰によって説明される部分の大きさの割合を表し、その意味で**決定係数**あるいは**寄与率**と呼ばれる。また、 S_e は最小化された予測誤差の平方和 $F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)$ に等しい。

そして、§1.7 で重相関係数 $r_{y \cdot 12 \dots p}$ は

$$r_{y \cdot 12 \dots p} = \frac{s_{yY}}{\sqrt{s_{yy}s_{YY}}}$$

のように表せた。これを 2 乗した式 (27) を考える。

$$r_{y \cdot 12 \dots p}^2 = \frac{s_{yY}^2}{s_{yy}s_{YY}} \tag{27}$$

ここで、

$$\begin{aligned}
s_{yY} &= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})(Y_i - \bar{Y}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (y_i - Y_i + Y_i - \bar{Y})(Y_i - \bar{Y}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (e_i + Y_i - \bar{Y})(Y_i - \bar{Y}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n e_i(Y_i - \bar{Y}) + \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2
\end{aligned} \tag{28}$$

残差の性質

残差 $e_i = y_i - (a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi})$ には次の2つの性質がある.

- 残差の総和は 0

$$\sum_{i=1}^n e_i = 0 \quad (29)$$

- 説明変数 x_i と残差 e_i との積和は 0

$$\sum_{i=1}^n x_{ji}e_i = 0 \quad (30)$$

式 (28) の右辺第 1 項に関して,

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n e_i(Y_i - \bar{Y}) &= \sum_{i=1}^n e_i Y_i - \bar{Y} \sum_{i=1}^n e_i \\ &= \sum_{i=1}^n e_i(\hat{a}_0 + \hat{a}_1x_{1i} + \cdots + \hat{a}_px_{pi}) \quad (\because \text{式 (29)} \sum_{i=1}^n e_i = 0 \text{ より}) \\ &= \hat{a}_0 \sum_{i=1}^n e_i + \hat{a}_1 \sum_{i=1}^n e_i x_{1i} + \cdots + \hat{a}_p \sum_{i=1}^n e_i x_{pi} \\ &= 0 \quad (\because \text{式 (30)} \sum_{i=1}^n x_{ji}e_i = 0 \text{ より}) \end{aligned} \quad (31)$$

したがって, 式 (28) は式 (31) の結果から,

$$s_{yY} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n e_i(Y_i - \bar{Y}) + \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 \quad (28)$$

$$= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 = s_{YY} \quad (32)$$

式 (32) の結果より, $s_{yY} = s_{YY}$ であるから, 式 (27) は

$$r_{y \cdot 12 \cdots p}^2 = \frac{s_{yY}^2}{s_{yy}s_{YY}} \quad (27)$$

$$\begin{aligned} &= \frac{s_{YY}^2}{s_{yy}s_{YY}} \\ &= \frac{s_{YY}}{s_{yy}} \\ &= \frac{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2} \\ &= R^2 \end{aligned} \quad (33)$$

となり, 重相関係数 $r_{y \cdot 12 \cdots p}$ の 2 乗は決定係数 R^2 と等しくなる.

χ^2 分布

Z_1, Z_2, \dots, Z_k が互いに独立で標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う確率変数であるとき, 次の式は χ^2 分布に従うという.

$$\chi^2 = Z_1^2 + Z_2^2 + \dots + Z_k^2$$

モデルが適合しているとき $\sum (y_i - Y_i)^2 / \sigma^2$ は,

$$\sum (y_i - Y_i)^2 / \sigma^2 = \sum (e_i - 0)^2 / \sigma^2$$

となるので自由度 $n - p - 1$ のカイ 2 乗分布に従う. また特に説明変数 x_1, \dots, x_p が y の予測に何ら寄与しない, 言い換えれば母集団における回帰係数の値が $a_1 = \dots = a_p = 0$ のときには, 回帰の変動は

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 &= \sum_{i=1}^n \{(\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \dots + \hat{a}_p x_{pi}) - (\hat{a}_0 + \hat{a}_1 \bar{x}_1 + \dots + \hat{a}_p \bar{x}_p)\}^2 \\ &= \sum_{i=1}^n \{\hat{a}_1 (x_{1i} - \bar{x}_1) + \dots + \hat{a}_p (x_{pi} - \bar{x}_p)\}^2 \\ &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \hat{a}_j^2 (x_{ji} - \bar{x}_j)^2 + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j \hat{a}_l (x_{ji} - \bar{x}_j)(x_{li} - \bar{x}_l) \quad (j \neq l) \\ &= n \sum_{j=1}^p \hat{a}_j^2 s_{jj} + n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j \hat{a}_l s_{jl} \end{aligned}$$

$V(\hat{a}_j) = \frac{\sigma^2}{ns_{jj}}$, かつ, 説明変数 x_j, x_l は互いに独立であることを用いると,

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 &= \sum_{j=1}^p \frac{\hat{a}_j^2 \sigma^2}{V(\hat{a}_j)} \\ \frac{1}{\sigma^2} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 &= \sum_{j=1}^p \frac{\hat{a}_j^2}{V(\hat{a}_j)} \\ &= \sum_{j=1}^p \left(\frac{\hat{a}_j}{\sqrt{V(\hat{a}_j)}} \right)^2 \end{aligned}$$

$u = \frac{\hat{a}_j - a_j}{\sqrt{V(\hat{a}_j)}} \sim N(0, 1)$ において, $a_j = 0, j = 1, \dots, p$ と仮定すると,

$$u = \frac{\hat{a}_j}{\sqrt{V(\hat{a}_j)}} \sim N(0, 1)$$

なので,

$$\sum_{j=1}^p \left(\frac{\hat{a}_j}{\sqrt{V(\hat{a}_j)}} \right)^2$$

は自由度 p の χ^2 分布に従う. すなわち,

$$\sum_{i=1}^n \frac{(Y_i - \bar{Y})^2}{\sigma^2}$$

表 1: 分散分析表

変動要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
回帰による	$S_R = \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2$	p	$V_R = \frac{S_R}{p}$	$F_0 = \frac{V_R}{V_e}$
回帰からの	$S_e = \sum_{i=1}^n (y_i - Y_i)^2$	$n - p - 1$	$V_e = \frac{S_e}{n - p - 1}$	
全体	$S_T = \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2$	$n - 1$		

は $\sum (y_i - Y_i)^2 / \sigma^2$ とは独立に自由度 p の χ^2 分布に従う. これより次のような分散分析表 (表 1) が構成される.

この分散分析表において分散比 F_0 が $F_0 \geq F_{n-p-1}^p(\alpha)$ ならば仮説 $H_0 : a_1 = \cdots = a_p = 0$ は危険率 α で棄却され, 回帰が変動の大きな要因となっている (回帰が有意である) ため, 取り上げた説明変数は全体として y の予測に役立つ, と結論づけられる. ここで, $F_{n-p-1}^p(\alpha)$ は自由度 $(p, n - p - 1)$ の F 分布の上側 $100\alpha\%$ 点である.

F 分布

2 つの確率分布 U, V が次の条件を満たすとする.

- (i) U は自由度 k_1 のカイ 2 乗分布 $\chi^2(k_1)$ に従う
- (ii) V は自由度 k_2 のカイ 2 乗分布 $\chi^2(k_2)$ に従う
- (iii) U, V は独立である.

ここで, U と V をそれぞれの自由度で割って調整したあとにとった比, すなわちフィッシャー分散比を

$$F = \frac{U/k_1}{V/k_2}$$

と定義すると, F が従う確率分布を自由度 (k_1, k_2) の F 分布といい, $F_n^{k_1}$ または $F(k_1, k_2)$ と表す.

例えば, 回帰の自由度が 3 で残差の自由度が 11 であり, 分散比 $F_0 = 8.21$ の場合, $F_0 \geq F_{11}^3(0.01) = 6.217$ となり, 仮説 $H_0 : a_1 = a_2 = a_3 = 0$ は危険率 1% で棄却され, 取り上げた 3 つの説明変数は y の予測に役立つと言える. (図 2)

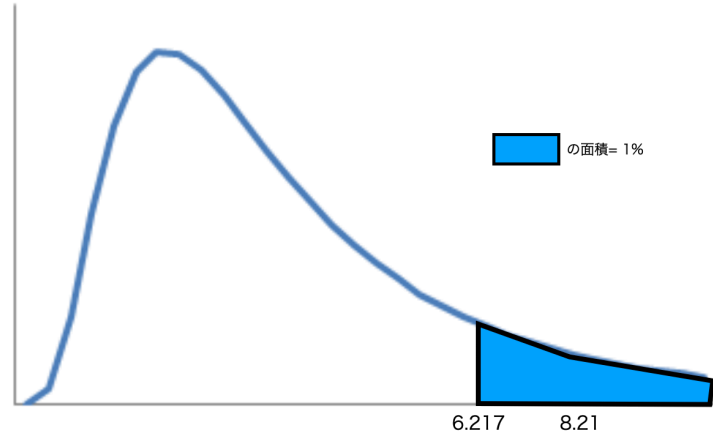


図 2: F 検定

2 式変形の証明

2.1 δ 関数と基本統計量

式変形で用いる, δ 関数を定義し, その他統計量を導く. まず, 式 (34) を δ 関数と定義する.

$$\delta(j, l) = \begin{cases} 1 & (j = l) \\ 0 & (j \neq l) \end{cases} \quad (34)$$

ここで, $\mathbf{V} = [s_{jl}]$ と $\mathbf{V}^{-1} = [s^{jl}]$ と p 次単位行列 \mathbf{I} について

$$\mathbf{V}^{-1}\mathbf{V} = \mathbf{V}\mathbf{V}^{-1} = \mathbf{I}$$

すなわち

$$\begin{bmatrix} s^{11} & s^{12} & \cdots & s^{1l} & \cdots & s^{1p} \\ s^{21} & s^{22} & \cdots & s^{2l} & \cdots & s^{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s^{j1} & s^{j2} & \cdots & s^{jl} & \cdots & s^{jp} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s^{p1} & s^{p2} & \cdots & s^{pl} & \cdots & s^{pp} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} s_{11} & s_{12} & \cdots & s_{1l} & \cdots & s_{1p} \\ s_{21} & s_{22} & \cdots & s_{2l} & \cdots & s_{2p} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{j1} & s_{j2} & \cdots & s_{jl} & \cdots & s_{jp} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots & \ddots & \vdots \\ s_{p1} & s_{p2} & \cdots & s_{pl} & \cdots & s_{pp} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 1 & \cdots & \vdots \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 1 \end{bmatrix}$$

行番号と列番号が一致するときのみ 1 をとることから,

$$\sum_{m=1}^p s^{jm} s_{ml} = \sum_{m=1}^p s_{ml} s^{jm} = \delta(j, l) \quad (35)$$

となる. また, 定数 $b_j, j = 1, 2, \dots, p$ について,

$$\sum_{l=1}^p b_l \delta(j, l) = b_j \quad (36)$$

が成り立つ.

y_i の期待値 $E(y_i)$ は

$$\begin{aligned} E(y_i) &= E(a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} + e_i) \quad (\because \text{式 (1)} \quad y_i = a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} + e_i \text{ より}) \\ &= a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} + E(e_i) \\ &= a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} \quad (\because E(e_i) = 0) \end{aligned} \quad (37)$$

y_i, y_k の共分散 $\text{Cov}(y_i, y_k)$ は,

$$\begin{aligned} \text{Cov}(y_i, y_k) &= E[\{y_i - E(y_i)\}\{y_k - E(y_k)\}] \\ &= E[\{y_i - (a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi})\}\{y_k - (a_0 + a_1x_{1k} + \cdots + a_px_{pk})\}] \\ &\quad (\because \text{式 (37)} \quad E(y_i) = a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} \text{ より}) \\ &= E(e_ie_k) \\ &= E[\{e_i - E(e_i)\}\{e_k - E(e_k)\}] \quad (\because E(e_i) = 0 \text{ より}) \\ &= \text{Cov}(e_i, e_k) \end{aligned} \quad (38)$$

$\text{Cov}(e_i, e_k)$ について, e_i, e_k は互いに独立で無相関であるため,

$$\begin{cases} \text{Cov}(e_i, e_k) = 0 & (i \neq k) \\ \text{Cov}(e_i, e_k) = V(e_i) & (i = k) \end{cases}$$

となる. また, 定数 $c_i, i = 1, 2, \dots, n$ に関して,

$$\sum_{k=1}^n c_k \text{Cov}(e_i, e_k) = c_i V(e_i) = c_i \sigma^2 \quad (39)$$

が成り立つ.

そして, 共分散 $s_{jl}, j, l = 1, 2, \dots, p$ について,

$$s_{jl} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j)(x_{li} - \bar{x}_l) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_{ji}x_{li} - \bar{x}_j\bar{x}_l \quad (40)$$

が成り立つ.

2.2 式 (11) の導出

式 (11) を導出するにあたって再掲する.

$$E(\hat{a}_j) = a_j, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11a)$$

$$V(\hat{a}_j) = \frac{s^{jj}\sigma^2}{n}, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11b)$$

$$\text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl}\sigma^2}{n}, \quad j \neq l, j, l = 1, 2, \dots, p \quad (11c)$$

$$E(\hat{a}_0) = a_0 \quad (11d)$$

$$V(\hat{a}_0) = \left(\frac{1}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_j\bar{x}_l s^{jl}}{n} \right) \sigma^2 \quad (11e)$$

$$\text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) = - \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_l s^{jl}\sigma^2}{n}, \quad j = 1, 2, \dots, p \quad (11f)$$

2.2.1 式 (11a) $E(\hat{a}_j) = a_j$ の導出

$$\begin{aligned}
E(\hat{a}_j) &= E \left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \right\} \quad (\because \text{式 (8)} \quad \hat{a}_j = \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p \sum_{i=1}^n s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \text{ より}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) E(y_i) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) (a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi}) \\
&\quad (\because \text{式 (37)} \quad E(y_i) = a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi} \text{ より}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) \left(a_0 + \sum_{j'=1}^p a_{j'} x_{j'i} \right) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p s^{jl} \left\{ a_0 \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) + \sum_{j'=1}^p a_{j'} \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) x_{j'i} \right\} \\
&= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p s^{jl} \sum_{j'=1}^p a_{j'} \sum_{i=1}^n (x_{li} x_{j'i} - \bar{x}_l x_{j'i}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p s^{jl} \sum_{j'=1}^p a_{j'} \left(\sum_{i=1}^n x_{li} x_{j'i} - \bar{x}_l \sum_{i=1}^n x_{j'i} \right) \\
&= \sum_{l=1}^p s^{jl} \sum_{j'=1}^p a_{j'} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_{li} x_{j'i} - \bar{x}_l \bar{x}_{j'} \right) \\
&= \sum_{l=1}^p s^{jl} \sum_{j'=1}^p a_{j'} s_{lj'} \quad (\because \text{式 (40)} \quad s_{jl} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_{ji} x_{li} - \bar{x}_j \bar{x}_l \text{ より}) \\
&= \sum_{j'=1}^p a_{j'} \sum_{l=1}^p s^{jl} s_{lj'} \\
&= \sum_{j'=1}^p a_{j'} \delta(j, j') \quad (\because \text{式 (35)} \quad \sum_{m=1}^p s^{jm} s_{ml} = \delta(j, l) \text{ より}) \\
&= a_j \quad (\because \text{式 (36)} \quad \sum_{l=1}^p b_l \delta(j, l) = b_j \text{ より})
\end{aligned}$$

2.2.2 式 (11c) $\text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl}\sigma^2}{n}$ の導出

$$\begin{aligned}
\text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) &= \text{E} [\{\hat{a}_j - \text{E}(\hat{a}_j)\} \{\hat{a}_l - \text{E}(\hat{a}_l)\}] \\
&= \text{E} \left[\left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j'=1}^p s^{jj'} (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) y_i - \text{E} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j'=1}^p s^{jj'} (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) y_i \right) \right\} \right. \\
&\quad \left. \left\{ \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sum_{l'=1}^p s^{ll'} (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) y_k - \text{E} \left(\frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sum_{l'=1}^p s^{ll'} (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) y_k \right) \right\} \right] \\
&\quad (\because \text{式 (8)} \quad \hat{a}_j = \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p \sum_{i=1}^n s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \text{ より}) \\
&= \text{E} \left[\left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j'=1}^p s^{jj'} (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (y_i - \text{E}(y_i)) \right\} \left\{ \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sum_{l'=1}^p s^{ll'} (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) (y_k - \text{E}(y_k)) \right\} \right] \\
&= \text{E} \left[\frac{1}{n^2} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} \sum_{i=1}^n \sum_{k=1}^n (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) \{y_i - \text{E}(y_i)\} \{y_k - \text{E}(y_k)\} \right] \\
&= \frac{1}{n^2} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} \sum_{i=1}^n \sum_{k=1}^n (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) \text{E} [\{y_i - \text{E}(y_i)\} \{y_k - \text{E}(y_k)\}] \\
&= \frac{1}{n^2} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} \sum_{i=1}^n \sum_{k=1}^n (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) \text{Cov}(y_i, y_k) \\
&= \frac{1}{n^2} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} \sum_{i=1}^n \sum_{k=1}^n (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (x_{l'k} - \bar{x}_{l'}) \text{Cov}(e_i, e_k) \\
&\quad (\because \text{式 (38)} \quad \text{Cov}(y_i, y_k) = \text{Cov}(e_i, e_k) \text{ より}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_{j'i} - \bar{x}_{j'}) (x_{l'i} - \bar{x}_{l'}) \sigma^2 \\
&\quad (\because \text{式 (39)} \quad \sum_{k=1}^n c_k \text{Cov}(e_i, e_k) = c_i \text{V}(e_i) = c_i \sigma^2 \text{ より}) \\
&= \frac{1}{n} \sum_{j'=1}^p \sum_{l'=1}^p s^{jj'} s^{ll'} s_{j'l'} \sigma^2 \\
&= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{l'=1}^p s^{ll'} \sum_{j'=1}^p s^{jj'} s_{j'l'} \\
&= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{l'=1}^p s^{ll'} \delta(j, l') \quad (\because \text{式 (35)} \quad \sum_{m=1}^p s^{jm} s_{ml} = \sum_{m=1}^p s_{ml} s^{jm} = \delta(j, l) \text{ より}) \\
&= \frac{s^{lj} \sigma^2}{n} = \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} \quad (\because \text{式 (36)} \quad \sum_{l=1}^p b_l \delta(j, l) = b_j \text{ より})
\end{aligned}$$

□

2.2.3 式 (11b) $V(\hat{a}_j) = \frac{s^{jj}\sigma^2}{n}$ の導出

式 (11c) において, j, l が $j = l$ のときであるから,

$$V(\hat{a}_j) = \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_j) = \frac{s^{jj}\sigma^2}{n}$$

□

2.2.4 式 (11d) $E(\hat{a}_0) = a_0$ の導出

$$\begin{aligned} E(\hat{a}_0) &= E(\bar{y} - \hat{a}_1\bar{x}_1 - \cdots - \hat{a}_p\bar{x}_p) \\ &= E(\bar{y}) - E\left(\sum_{j=1}^p \hat{a}_j\bar{x}_j\right) \\ &= E\left(\frac{1}{n}\sum_{i=1}^n y_i\right) - \sum_{j=1}^p E(\hat{a}_j)\bar{x}_j \\ &= \frac{1}{n}\sum_{i=1}^n E(y_i) - \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j \quad (\because \text{式 (11a) より } E(\hat{a}_j) = a_j) \\ &= \frac{1}{n}\sum_{i=1}^n (a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi}) - \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j \\ &\quad (\because \text{式 (37) } E(y_i) = a_0 + a_1x_{1i} + \cdots + a_px_{pi} \text{ より}) \\ &= \frac{1}{n}\sum_{i=1}^n \left(a_0 + \sum_{j=1}^p a_jx_{ji}\right) - \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j \\ &= \frac{1}{n}\sum_{i=1}^n a_0 + \sum_{j=1}^p a_j \frac{1}{n}\sum_{i=1}^n x_{ji} - \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j \\ &= a_0 + \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j - \sum_{j=1}^p a_j\bar{x}_j \\ &= a_0 \end{aligned}$$

□

2.2.5 式 (11e) $V(\hat{a}_0) = \left(\frac{1}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}}{n} \right) \sigma^2$ の導出

$$\begin{aligned}
V(\hat{a}_0) &= E[(\hat{a}_0 - E(\hat{a}_0))^2] \\
&= E\left[\{\bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) - E(\bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p))\}^2\right] \\
&\quad (\because \text{式 (9)} \quad \hat{a}_0 = \bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) \text{ より}) \\
&= E\left[\{\bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) - (E(\bar{y}) - E(\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p))\}^2\right] \\
&= E\left[\left\{(\bar{y} - E(\bar{y})) - \left(\sum_{j=1}^p \hat{a}_j \bar{x}_j - \sum_{j=1}^p E(\hat{a}_j \bar{x}_j)\right)\right\}^2\right] \\
&= E[\{\bar{y} - E(\bar{y})\}^2] + E\left[\left\{\sum_{j=1}^p \hat{a}_j \bar{x}_j - \sum_{j=1}^p E(\hat{a}_j \bar{x}_j)\right\}^2\right] \\
&\quad - 2E\left[\{\bar{y} - E(\bar{y})\} \left\{\sum_{j=1}^p \hat{a}_j \bar{x}_j - \sum_{j=1}^p E(\hat{a}_j \bar{x}_j)\right\}\right] \\
&= V(\bar{y}) + E\left[\left\{\sum_{j=1}^p \bar{x}_j (\hat{a}_j - E(\hat{a}_j))\right\}^2\right] - 2E\left[\{\bar{y} - E(\bar{y})\} \sum_{j=1}^p \bar{x}_j \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}\right] \\
&= V(\bar{y}) + E\left[\left\{\sum_{j=1}^p \bar{x}_j (\hat{a}_j - E(\hat{a}_j))\right\} \left\{\sum_{l=1}^p \bar{x}_l (\hat{a}_l - E(\hat{a}_l))\right\}\right] - 2 \sum_{j=1}^p \bar{x}_j E[\{\bar{y} - E(\bar{y})\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] \\
&= V(\bar{y}) + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) - 2 \sum_{j=1}^p \bar{x}_j \text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) \tag{41}
\end{aligned}$$

ここで式 (41) の第 1 項について,

$$\begin{aligned}
V(\bar{y}) &= V\left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i\right) \\
&= V\left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi} + e_i)\right) \\
&= V\left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n e_i\right) \\
&= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n V(e_i) \\
&= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n \sigma^2 \\
&= \frac{1}{n^2} n \sigma^2 = \frac{\sigma^2}{n} \tag{42}
\end{aligned}$$

次に式 (41) の第 3 項について,

$$\begin{aligned}
\text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) &= \text{E} [\{\bar{y} - \text{E}(\bar{y})\} \{\hat{a}_j - \text{E}(\hat{a}_j)\}] \\
&= \text{E} \left[\left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i - \text{E} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i \right) \right\} \right. \\
&\quad \left. \left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i - \text{E} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \right) \right\} \right] \\
&\quad (\because \text{式 (8)} \quad \hat{a}_j = \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p \sum_{i=1}^n s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \text{ より}) \\
&= \text{E} \left[\left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i - \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \text{E}(y_i) \right\} \right. \\
&\quad \left. \left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i - \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) \text{E}(y_i) \right\} \right] \\
&= \text{E} \left[\left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (y_i - \text{E}(y_i)) \right\} \left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) (y_i - \text{E}(y_i)) \right\} \right] \\
&= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p s^{jl} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) \text{E} [\{y_i - \text{E}(y_i)\}^2] \\
&= 0
\end{aligned} \tag{43}$$

式 (42) と式 (43) を式 (41) に代入すると,

$$\begin{aligned}
V(\hat{a}_0) &= V(\bar{y}) + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) - 2 \sum_{j=1}^p \bar{x}_j \text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) \\
&= \frac{\sigma^2}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l \left(\frac{s^{jl} \sigma^2}{n} \right) \quad (\because \text{式 (11c)} \quad \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} \text{ より}) \\
&= \left(\frac{1}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}}{n} \right) \sigma^2
\end{aligned}$$

□

2.2.6 式 (11f) $\text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) = -\sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_l s^{jl} \sigma^2}{n}$ の導出

$$\begin{aligned}
\text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) &= E[\{\hat{a}_0 - E(\hat{a}_0)\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] \\
&= E[\{(\bar{y} - \hat{a}_1 \bar{x}_1 - \cdots - \hat{a}_p \bar{x}_p) - E(\bar{y}) + E(\hat{a}_1 \bar{x}_1) + \cdots + E(\hat{a}_p \bar{x}_p)\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] \\
&\quad (\because \text{式 (9)} \quad \hat{a}_0 = \bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) \text{ より}) \\
&= E[\{\bar{y} - E(\bar{y})\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] - E[\bar{x}_1 \{\hat{a}_1 - E(\hat{a}_1)\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] \\
&\quad - \cdots - E[\bar{x}_p \{\hat{a}_p - E(\hat{a}_p)\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\}] \\
&= \text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) - \bar{x}_1 \text{Cov}(\hat{a}_1, \hat{a}_j) - \cdots - \bar{x}_p \text{Cov}(\hat{a}_p, \hat{a}_j) \\
&= \text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) - \sum_{l=1}^p \bar{x}_l \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) \\
&= -\sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_l s^{jl} \sigma^2}{n} \\
&\quad (\because \text{式 (43)} \quad \text{Cov}(\bar{y}, \hat{a}_j) = 0 \text{ と式 (11c)} \quad \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} \text{ より})
\end{aligned}$$

□

2.3 式 (16) $F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p) = n(s_{yy} - \sum_{l=1}^p s_{yl} \hat{a}_l)$ の導出

$$\begin{aligned}
F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p) &= \sum_{i=1}^n \{y_i - (\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \cdots + \hat{a}_p x_{pi})\}^2 \\
&= \sum_{i=1}^n \{(y_i - \bar{y}) - \hat{a}_1(x_{1i} - \bar{x}_1) - \cdots - \hat{a}_p(x_{pi} - \bar{x}_p)\}^2 \\
&\quad (\because \text{式 (9)} \quad \hat{a}_0 = \bar{y} - (\hat{a}_1 \bar{x}_1 + \cdots + \hat{a}_p \bar{x}_p) \text{ より}) \\
&= \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2 - 2 \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y}) \sum_{j=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) \\
&\quad + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) \hat{a}_l (x_{li} - \bar{x}_l)
\end{aligned} \tag{44}$$

ここで, 式 (44) の第 1 項は,

$$\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2 = n s_{yy} \tag{45}$$

また, 式 (44) の第 2 項は,

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y}) \sum_{j=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) &= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y}) (x_{ji} - \bar{x}_j) \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j n s_{yj}
\end{aligned} \tag{46}$$

そして、式 (44) の第 3 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) \hat{a}_l (x_{li} - \bar{x}_l) &= \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j \hat{a}_l \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j) (x_{li} - \bar{x}_l) \\
&= \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j \hat{a}_l n s_{jl} \\
&= \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j \left\{ \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{l'=1}^p s^{ll'} (x_{l'i} - \bar{x}_{l'}) y_i \right\} n s_{jl} \\
&\quad (\because \text{式 (8)} \quad \hat{a}_j = \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p \sum_{i=1}^n s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) y_i \text{ より}) \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \sum_{i=1}^n y_i \sum_{l'=1}^p (x_{l'i} - \bar{x}_{l'}) \sum_{l=1}^p s_{jl} s^{ll'} \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \sum_{i=1}^n y_i \sum_{l'=1}^p (x_{l'i} - \bar{x}_{l'}) \delta(j, l') \\
&\quad (\because \text{式 (35)} \quad \sum_{m=1}^p s_{ml} s^{jm} = \delta(j, l) \text{ より}) \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j) y_i \\
&\quad (\because \text{式 (36)} \quad \sum_{l=1}^p b_l \delta(j, l) = b_j \text{ より}) \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j) \{ (y_i - \bar{y}) + \bar{y} \} \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j \left\{ \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j) (y_i - \bar{y}) + \bar{y} \sum_{i=1}^n (x_{ji} - \bar{x}_j) \right\} \\
&= \sum_{j=1}^p \hat{a}_j n s_{yj} \tag{47}
\end{aligned}$$

式 (44) に式 (45), 式 (46), 式 (47) を代入すると、

$$\begin{aligned}
F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p) &= \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2 - 2 \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y}) \sum_{j=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) \\
&\quad + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \hat{a}_j (x_{ji} - \bar{x}_j) \hat{a}_l (x_{li} - \bar{x}_l) \\
&= n s_{yy} - 2 \sum_{j=1}^p \hat{a}_j n s_{yj} + \sum_{j=1}^p \hat{a}_j n s_{yj} \\
&= n \left(s_{yy} - \sum_{j=1}^p \hat{a}_j s_{yj} \right)
\end{aligned}$$

□

2.4 V_e が誤差分散 σ^2 の不偏推定値であることの証明

式 (13) $V_e = \frac{F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)}{n-p-1}$ が誤差分散 σ^2 の不偏推定値であることを示すため, $F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)$ の期待値を求める.

$$\begin{aligned}
E[F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)] &= E \left[\sum_{i=1}^n \{y_i - (\hat{a}_0 + \hat{a}_1 x_{1i} + \dots + \hat{a}_p x_{pi})\}^2 \right] \\
&= E \left[\sum_{i=1}^n \{(a_0 - \hat{a}_0) + (a_1 - \hat{a}_1)x_{1i} + \dots + (a_p - \hat{a}_p)x_{pi} + e_i\}^2 \right] \\
&\quad (\because \text{式 (1)} \quad y_i = a_0 + a_1 x_{1i} + \dots + a_p x_{pi} + e_i \text{ より}) \\
&= E \left[\sum_{i=1}^n \{(a_0 - \hat{a}_0) + (a_1 - \hat{a}_1)x_{1i} + \dots + (a_p - \hat{a}_p)x_{pi}\}^2 \right] \\
&\quad + 2E \left[\sum_{i=1}^n e_i \{(a_0 - \hat{a}_0) + (a_1 - \hat{a}_1)x_{1i} + \dots + (a_p - \hat{a}_p)x_{pi}\} \right] + E \left(\sum_{i=1}^n e_i^2 \right) \\
&= E \left[\sum_{i=1}^n \left\{ (a_0 - \hat{a}_0)^2 + 2(a_0 - \hat{a}_0) \sum_{j=1}^p (a_j - \hat{a}_j)x_{ji} + \sum_{j=1}^p (a_j - \hat{a}_j)x_{ji} \sum_{l=1}^p (a_l - \hat{a}_l)x_{li} \right\} \right] \\
&\quad + 2 \sum_{i=1}^n E \left[e_i (a_0 - \hat{a}_0) + e_i \sum_{j=1}^p (a_j - \hat{a}_j)x_{ji} \right] + E \left(\sum_{i=1}^n e_i^2 \right) \\
&= \sum_{i=1}^n E \left[\{\hat{a}_0 - E(\hat{a}_0)\}^2 \right] + 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p E[\hat{a}_0 - E(\hat{a}_0)] E[\{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\} x_{ji}] \\
&\quad + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p E[\{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\} \{\hat{a}_l - E(\hat{a}_l)\} x_{ji} x_{li}] \\
&\quad - 2 \sum_{i=1}^n E[\{e_i - E(e_i)\} \{\hat{a}_0 - E(\hat{a}_0)\}] \\
&\quad - 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p E[\{e_i - E(e_i)\} \{\hat{a}_j - E(\hat{a}_j)\} x_{ji}] + E \left(\sum_{i=1}^n e_i^2 \right) \\
&\quad (\because \text{式 (11a)} \quad E(\hat{a}_j) = a_j \text{ と式 (11d)} \quad E(\hat{a}_0) = a_0 \text{ より}) \\
&= \sum_{i=1}^n V(\hat{a}_0) + 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) x_{ji} + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) x_{ji} x_{li} \\
&\quad - 2 \sum_{i=1}^n \text{Cov}(e_i, \hat{a}_0) - 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(e_i, \hat{a}_j) x_{ji} + E \left(\sum_{i=1}^n e_i^2 \right)
\end{aligned} \tag{48}$$

ここで、式 (48) の第 4 項に関して、

$$\begin{aligned}
\text{Cov}(e_i, \hat{a}_0) &= \text{E}[\{e_i - \text{E}(e_i)\} \{\hat{a}_0 - \text{E}(\hat{a}_0)\}] \\
&= \text{E}[\{e_i - \text{E}(e_i)\} \\
&\quad \left\{ \sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} y_k - \text{E} \left(\sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} y_k \right) \right\}] \\
&\quad (\because \text{式 (10)} \quad \hat{a}_0 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left\{ 1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l) \right\} y_i) \\
&= \text{E} \left[\{e_i - \text{E}(e_i)\} \sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \{y_k - \text{E}(y_k)\} \right] \\
&= \sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \text{E}[\{e_i - \text{E}(e_i)\} \{y_k - \text{E}(y_k)\}] \\
&= \sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \text{E}[\{e_i - \text{E}(e_i)\} \{e_k - \text{E}(e_k)\}] \\
&\quad (\because \text{式 (37)} \quad \text{E}(y_i) = a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi}, \\
&\quad \text{式 (1)} \quad y_i = a_0 + a_1 x_{1i} + \cdots + a_p x_{pi} + e_i \text{ より}) \\
&= \sum_{k=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \text{Cov}(e_i, e_k) \\
&= \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \sigma^2 \\
&\quad (\because \text{式 (39)} \quad \sum_{k=1}^n c_k \text{Cov}(e_i, e_k) = c_i \sigma^2 \text{ より})
\end{aligned} \tag{49}$$

式 (49) より、式 (48) の第 4 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n \text{Cov}(e_i, \hat{a}_0) &= \sum_{i=1}^n \frac{1 - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l)\bar{x}_j}{n} \sigma^2 \\
&= \sum_{i=1}^n \frac{\sigma^2}{n} - \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{s^{jl} \bar{x}_j \sigma^2}{n} \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) \\
&= n \frac{\sigma^2}{n} \\
&= \sigma^2
\end{aligned} \tag{50}$$

式 (49) と同様の手法で、

$$\begin{aligned}
\text{Cov}(e_i, \hat{a}_j) &= \text{Cov} \left\{ e_i, \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{lk} - \bar{x}_l) y_k \right\} \\
&= \frac{1}{n} \sum_{l=1}^p s^{jl}(x_{li} - \bar{x}_l) \sigma^2
\end{aligned} \tag{51}$$

そして、式 (51) より、式 (48) の第 5 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(e_i, \hat{a}_j) x_{ji} &= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) x_{ji} \\
&= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} (x_{li} - \bar{x}_l) \{x_{ji} - (\bar{x}_j - \bar{x}_j)\} \\
&= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) (x_{ji} - \bar{x}_j) - \frac{\sigma^2}{n} \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} \bar{x}_j \sum_{i=1}^n (x_{li} - \bar{x}_l) \\
&= \frac{\sigma^2}{n} \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} n s_{lj} \\
&= \sigma^2 \sum_{j=1}^p \delta(j, j) \quad (\because \text{式 (35)} \quad \sum_{m=1}^p s^{jm} s_{ml} = \delta(j, l) \text{ より}) \\
&= \sigma^2 p \quad (\because \text{式 (36)} \quad \sum_{l=1}^p b_l \delta(j, l) = b_j \text{ より})
\end{aligned} \tag{52}$$

式 (48) の第 1 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n V(\hat{a}_0) &= \sum_{i=1}^n \frac{\left(1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}\right) \sigma^2}{n} \\
&(\because \text{式 (11e)} \quad V(\hat{a}_0) = \left(\frac{1}{n} + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl}}{n}\right) \sigma^2 \text{ より}) \\
&= \sigma^2 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2
\end{aligned} \tag{53}$$

式 (48) の第 2 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) x_{ji} &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \left(-\frac{\sum_{l=1}^p \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2}{n} x_{ji} \right) \\
&(\because \text{式 (11f)} \quad \text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) = -\sum_{l=1}^p \frac{\bar{x}_l s^{jl} \sigma^2}{n} \text{ より}) \\
&= \sum_{j=1}^p \left(-\sum_{l=1}^p \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2 \right) \sum_{i=1}^n \frac{x_{ji}}{n} \\
&= -\sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2
\end{aligned} \tag{54}$$

式 (48) の第 3 項は、

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) x_{ji} x_{li} &= \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} x_{ji} x_{li} \\
&(\because \text{式 (11c)} \quad \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) = \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} \text{ より})
\end{aligned} \tag{55}$$

式 (48) の第 6 項は,

$$\begin{aligned}
E\left(\sum_{i=1}^n e_i^2\right) &= \sum_{i=1}^n E\left[\{e_i - E(e_i)\}^2\right] \\
&= \sum_{i=1}^n V(e_i) \\
&= n\sigma^2
\end{aligned} \tag{56}$$

最後に, 式 (53), 式 (54), 式 (55), 式 (50), 式 (52), 式 (56) を式 (48) に代入して,

$$\begin{aligned}
E[F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)] &= \sum_{i=1}^n V(\hat{a}_0) + 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_0, \hat{a}_j) x_{ji} + \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \text{Cov}(\hat{a}_j, \hat{a}_l) x_{ji} x_{li} \\
&\quad - 2 \sum_{i=1}^n \text{Cov}(e_i, \hat{a}_0) - 2 \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \text{Cov}(e_i, \hat{a}_j) x_{ji} + E\left(\sum_{i=1}^n e_i^2\right) \\
&= \left(\sigma^2 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2\right) + 2 \left(-\sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \bar{x}_j \bar{x}_l s^{jl} \sigma^2\right) \\
&\quad \left(\sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p \frac{s^{jl} \sigma^2}{n} x_{ji} x_{li}\right) - 2\sigma^2 - 2\sigma^2 p + n\sigma^2 \\
&= \left\{n - 2p - 1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_{ji} x_{li} - \bar{x}_j \bar{x}_l\right)\right\} \sigma^2 \\
&= \left(n - 2p - 1 + \sum_{j=1}^p \sum_{l=1}^p s^{jl} s_{lj}\right) \sigma^2 \\
&\quad (\because \text{式 (40)} \quad s_{jl} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_{ji} x_{li} - \bar{x}_j \bar{x}_l \text{ より}) \\
&= \left(n - 2p - 1 + \sum_{j=1}^p \delta(j, j)\right) \sigma^2 \\
&\quad (\because \text{式 (35)} \quad \sum_{m=1}^p s^{jm} s_{ml} = \delta(j, l) \text{ より}) \\
&= (n - 2p - 1 + p) \sigma^2 \\
&= (n - p - 1) \sigma^2
\end{aligned}$$

したがって,

$$E(V_e) = \frac{E[F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)]}{n - p - 1} = \frac{(n - p - 1) \sigma^2}{n - p - 1} = \sigma^2$$

この結果より,

$$V_e = \frac{F(\hat{a}_0, \hat{a}_1, \dots, \hat{a}_p)}{n - p - 1}$$

が誤差分散 σ^2 の不偏推定値であることがわかる。

□